

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業 (2021年～2024年)



ジェンダーに配慮した月経衛生に基づく女子に

■ 実施団体： やさしい教育環境づくり

特定非営利活動法人

Global Bridge Network

■ 対象国・地域：ウガンダ共和国
ムベンデ県、ブタンバラ県、ワキソ県

■ 現地カウンターパート

・SORAK Development Agency (CP機関：ワキソ県・ムベンデ
県)、VOTU (協力機関：ブタンバラ県)

■ 協力内容：

- ・現地初等学校において女子生徒が生理に対処できる施設の整備・改善を行い、その維持を学校が出来るように仕組みを整える
- ・生徒・教員の月経時の衛生管理能力を向上させる
- ・地域住民、保護者および行政における女子教育の重要性と月経時のサポートへの意識を向上させる
- ・Happy-Padプロモーションセンターを設立し、生理用布ナプキンの普及および作成技術を与える場所とする

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・女の子の教育環境改善
- ・女性・若者の経済的自立支援
- ・環境保全・環境教育および収入向上事業

■ 事業実施の背景：

・ウガンダでは青年期の男女が学校や家庭で生理について教わらず、月経に関する正しい知識、衛生・性教育が不足している。さらに地域全体で女子の教育が軽視される傾向があり、貧困家庭では保護者が生理用品を提供できず、多くの女子生徒が生理中に学校を欠席または退学している。女子が将来、社会的・経済的に脆弱な立場に陥らないためにも、生理中も安心して学校に通学し、基礎教育を完了できる環境をつくる必要がある。



ウガンダ国の課題と成果

課題① 生徒および教員の月経に関する正しい知識と衛生管理・性教育の不足により、学校で男子生徒が生理中の女子をかからかい、女子が学校に来られなくなる。

成果① 対象校にて月経衛生管理(MHM)クラブが組織され、女子生徒のみならず男子生徒と共に正しい知識を獲得、生理用布ナプキン作成などの活動により、**男子生徒の女子への理解が深まり、サポートするようになった。**

課題② 多くの学校の女子トイレ、洗面所、着替えの場所などの設備不足・不備により、女子生徒が学校にて生理の対処ができず、欠席することになる。

成果② 対象校の女子トイレ・着替えの場所が、保護者を含む学校関係者などが整備資金の一部を負担する形で整備された。さらに**生徒(MHMクラブメンバー)が施設の掃除やメンテナンスを行い、月経衛生管理できる環境が整った。**

事業の波及効果

①布ナプキン作成のオンライントレーニング開催を機に、他団体にてナプキン生産・販売が始まった。

②MHMクラブの活動のためにミシンを学校に提供したことにより、生理用布ナプキン以外のもの(制服、Tシャツ等)も作成したいという声が出てきており、積極的にライフスキル(テイラリング技術)向上のためにミシンを使う生徒が出てきた。それがMHMクラブに所属する1つの動機となるなどの好循環が起こっている。